

2019年度グッドデザイン賞受賞展から

応用技術課 福岡 崇

2019年度グッドデザイン賞は10月1日に受賞結果が発表され、10月31日からは受賞展が東京ミッドタウンで開催されました。グッドデザイン賞は1957年の創設以来、日本を代表するデザインの評価・推奨の運動として広く知られています。プロダクトをはじめ、建築・プロジェクトなど幅広い領域から応募されるデザインに対して、外見上の印象だけでなく使い勝手や環境への配慮、社会への提案力など、さまざまな観点から審査されます。今年度の共通テーマは「デザインの持つ美しさ、そして共振する力」。審査対象4772件に対し1420件が受賞しました。



2019年度の傾向

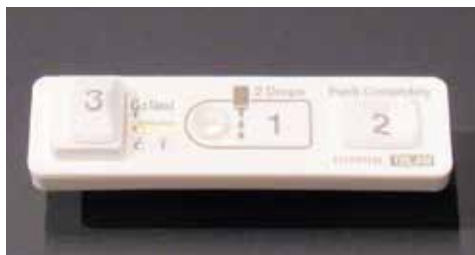
グッドデザイン賞は世界各国から応募がありますが、その中でもアジアでの認知度は高く、特に中国勢が全受賞件数の1割以上(今年度は中国・台湾・香港で173件が受賞)を占めます。これらアジア勢からの提案は毎年増加しており、近年は特に新技術・新提案を盛り込んだものが多く見られ、これらの地域の開発意欲の高まりが窺えます。

対して日本国内からの提案で特徴的なのは、定番・成熟商品に対する新たな価値の提供。製品単体の完成度の高さだけでなく、人との関わりを具現化したものが目を惹きました。

グッドデザイン大賞

グッドデザイン大賞は全ての受賞対象を通じて、本年度を象徴するデザインに贈られる賞で、審査委員等だけでなく展示会来場者の投票結果も含めて決定されます。

今年度大賞に選ばれたのは富士フィルム(株)の「結核迅速診断キット」です。これは写真現像の「銀増幅技術」を応用し、尿中の僅かな成分から結核菌の存在を判定するもので、電力供給などのインフラが安定しない開発途上国などでも、電源や装置



を用いない簡単確実な検査を実現している点が高く評価されました。

結核迅速診断キット

京都企業の受賞

京都企業が特に強みを見せたのが産業/医療機器設備の分野。受賞30点のうち5企業13点がこの分野に集中しています。

このユニットでは、産業/医療現場における専門家の人手不足を補い、無人で、あるいは知識、経験の少ない者でも問題なく扱えることを特徴とした提案が数多くみられました。ただ、そのアプローチの方法は様々であり、先端技術を積極的に取り入れて問題解決を図っている事例が多数示される一方、大賞となった「結核迅速診断キット」に見られるような既存技術を応用、発展させたものや、京都機械工具(株)の「落下防止機構付きソケットビット」のように、各 부품の接合の工夫だけで作業現場の安全性を大きく向上させている提案があることも特徴です。

デザイン担当の支援

当技術センターのデザイン担当では、デザイン賞の応募支援や情報提供をはじめ、自社製品のデザインの改良、パンフレットやパッケージのデザインを変えたい、デザインに強い社内スタッフを育てたい、企画について社外の客観的な意見が聞きたい、など様々な取り組みについてのアドバイスを実施しています。

また、デザイナーとのマッチングの場の提供や企業からのデザイン研究生の受け入れ、3Dプリンタや動画撮影などデザインの技術に関する相談もお受けしています。

KYOTO DESIGN WORK SHOWのご案内

デザイナーとのマッチングの場の提供として京都ビジネス交流フェアの会場でも毎年開催しているのが「KYOTO DESIGN WORK SHOW」です。プロダクトデザインを得意とするデザイン企業がそれぞれの仕事例を展示する他、ミニセミナー「デザイン活用ガイド」でデザインをするにあたっての考え方を紹介されます。その場で直接質問や相談にも応じていただけます。また、会場では併せてグッドデザイン賞やiFデザインアワード(ドイツ)の応募説明会も行いますので、ぜひお立ち寄りください。

KYOTO DESIGN WORK SHOW

日時 令和2年2月13日(木)14日(金)10時~17時

場所 京都パルスプラザ(京都府総合見本市会館)

内容 プロダクトデザイナーによる具体的なデザイン事例の紹介

グッドデザイン賞・iF DESIGN AWARD応募説明 等